

重点取組分野	南戸塚中学校 令和 3 年度 学校評価報告書		総括
	具体的取組	自己評価結果	
安全管理の徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時や事故発生時にすべての職員が自主的に動き対処できるよう研修をすすめる。</li> <li>・学習環境を整備し、安全で快適な学校生活を送れるようにする。</li> <li>・感染症に関する共通の知識理解を職員間で持ち、適切な行動ができるよう研修を重ねる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度以上に、コロナによる感染症対策に重点を置き活動することができた。また、消毒作業においては、前年の経験を活かし、生徒が積極的に取り組み、職員がサポートに回ることができた。</li> <li>・避難訓練は、コロナの関係で実施は2回となったが、生徒たちの参加姿勢は良かった。</li> <li>・各教室の整備や点検も定期的に委員会を通して行い、整えることができた。</li> </ul>	A
授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領の趣旨に基づく実践方法や、効果のあった学習形態などについてのまとめを教科ごとに作成し、研修会で発表し、相互に研究を深める。特に情報端末機器の利用について研修を積む。</li> <li>・教科横断的に取り組む内容を再構成し、「総合的な学習の時間」の充実を図る。従来のキャリア教育のほかに、柱となる取り組み実践を積み上げていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器の利用研修をもとに、分散登校等の感染予防に関する授業形態を模索し、情報交換をしながら機器の利用が推進できた。授業を相互に見合う週間を設定し、より効果的な学習形態について相互に研修を行った。</li> <li>・横浜の時間について新学習指導要領に基づいた探究学習を推進し、その中でキャリアや他の柱となる取り組み実践を積み上げる必要がある。</li> </ul>	B
主体的な生徒活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会参画の態度を育てるために、より多くの生徒が活躍できる場面をつくるとともに課題解決のために話し合い、主体的に考える活動を充実させます。</li> <li>・社会貢献の態度を育てるために、校内でできるボランティア活動などを企画し、参加しやすい体制を整えます。また、地域と触れ合う機会として、自ら発信する行動を起こします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校集会のレクでは、多くの生徒が楽しんで活躍する場面を作ることができた。また、集会を企画運営するにあたり、本部役員を中心に主体的に考えて活動する力を伸ばすことができた。中央委員会で話し合い活動を充実させることができた。</li> <li>・ボランティア活動の一つとして「シトラスリボンプロジェクト」を企画したが、取組む時期が遅く、全校に周知しきれなかったことが反省点である。</li> </ul>	A
受容型生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な生活アンケートの実施や教育相談の充実で生徒理解を深め、家庭との連携を密にする。アンケートの集約・事後指導の徹底。</li> <li>・授業、休み時間、昼食時、廊下、保健室等で積極的に生徒たちの輪、会話に入っていく。</li> <li>・不登校生徒・保護者との相談活動を充実させ、必要に応じて他機関と連携する。</li> <li>・特別支援を要する生徒を把握し、特別支援教育校内委員会（企画会）と連携していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒理解を深めるアンケートや教育相談は確実に実施することができ、指導よりも寄り添うことや、支援する生徒指導になっている。</li> <li>・すべての教員が生徒のそばにいる時間が長く、常に生徒状況を把握できるようになっている。</li> <li>・不登校生徒・保護者と定期的に連絡や家庭訪問を行った。また、他機関につなげ、連携を図った。</li> <li>・別室での受け入れ態勢もでき、別室での不登校生徒への指導も行えるようになった。</li> </ul>	A
教育課程の編成	2021：各教科の評価規準にもとづいたカリ編制の実践 計画通り教育課程を行うことと、学習指導要領の趣旨を踏まえた教育課程となっているかをまとまりごとに検証し、さらに研修会を開催し理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画通り教育課程を行うことができた。</li> <li>・学習指導要領の趣旨を踏まえた教育課程となっているかをまとまりごとに検証することができた。</li> <li>・もっと十分に研修会を開催し理解を深める必要がある。</li> </ul>	B
いじめへの対応	<ol style="list-style-type: none"> <li>①生徒アンケートを定期的実施し（年4回）、教育相談の場において、傾聴・受容的姿勢で臨む。</li> <li>②日常的な生徒との対話を大切に、基本的なかかわりをていねいに行う。</li> <li>③家庭連絡や懇談会での保護者への対応を重視し、保護者の考えや意見等の発信を丁寧に聞き取り、全職員で共有する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒アンケート（4回）は確実に実施できた。</li> <li>・アンケートを基にした教育相談も実施できた。</li> <li>・トラブルは早期に把握し、保護者への説明も迅速に行えている。</li> <li>・些細なトラブルもいじめではないかとの意識をもって解決にあたることができている。</li> </ul>	A
人材育成・組織運営（働き方改革）	<ol style="list-style-type: none"> <li>①新組織の部門の目標を明確にし、年2回の振り返りを組織の修正に活かす。</li> <li>②部門会議開催前に課題を明確にし会議に臨む。会議時間を短縮し、生徒と向き合う時間を多くする。</li> <li>③研究授業、校内研修、メンター研修等を意図的につなげ教師力の向上を目指す。</li> <li>④閉庁日、留守番電話の設定を進め、年休取得の日数を昨年を上回る日数とする。また超過勤務時間も昨年度より削減する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部門の目標を明確にし、年2回の振り返りや年度末反省を組織の修正に活かすことができた。</li> <li>・もっと十分に授業研究、改善に取り組める時間を確保する必要がある。</li> <li>・閉庁日、留守番電話について導入を図り、不都合は生じていない。また年休取得の日数は昨年度を上回ることができた。</li> </ul>	B
ブロック内評価後の気付き	コロナの影響で外部の方に学校内活動を見ていただいたり、交流することがほとんどできていない。年度末の総括も開かず、総括評価はできていない		
学校関係者評価	新学習指導要領での評価では、評定で「5」をとるのが難しくなっているように感じる。コロナによる分散登校では、chromebookを使ったON LINE授業ができたことは進歩であり、評価できる。登下校時や来校時に生徒がとてもよく挨拶をする。マナーも以前に比べ大変よくなっている。生徒会をリーダーとした挨拶運動の成果であり、主体的な活動がしっかり行われている。		
中期取組目標振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領の全面実施1年目は、それまでの準備を生かして滞りなく進めることができた。しかし、実践を通して分かった課題なども見つかったので、次年度に向けて改善していく。</li> <li>・「チーム南戸塚」として組織的な学校運営を行うにあたり、主幹教諭をはじめとするリーダー的役割の教員がより力を発揮していけるように改善を図っていきたい。</li> <li>・生徒会活動、行事をはじめ教科授業の場でも生徒の主体的な活動を大切にしたい指導ができている。</li> </ul>		

